

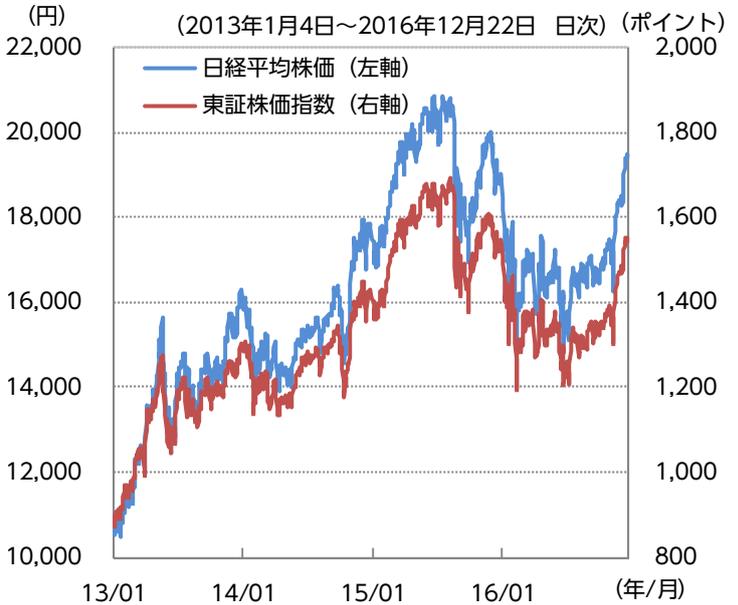


(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

■ 先週の日本株式市場（日経平均株価）は、前週末までの連日の上昇による過熱感から利益確定売りが優勢となり、10営業日ぶりに下落して始まりました。20日（火）に日銀が金融政策の現状維持を発表すると反発し、年初来高値を更新しました。週末は、21日（水）の米国株式相場下落を受けて利益確定売りが優勢となり、下落しました。（週末引け値：19,427.67円）

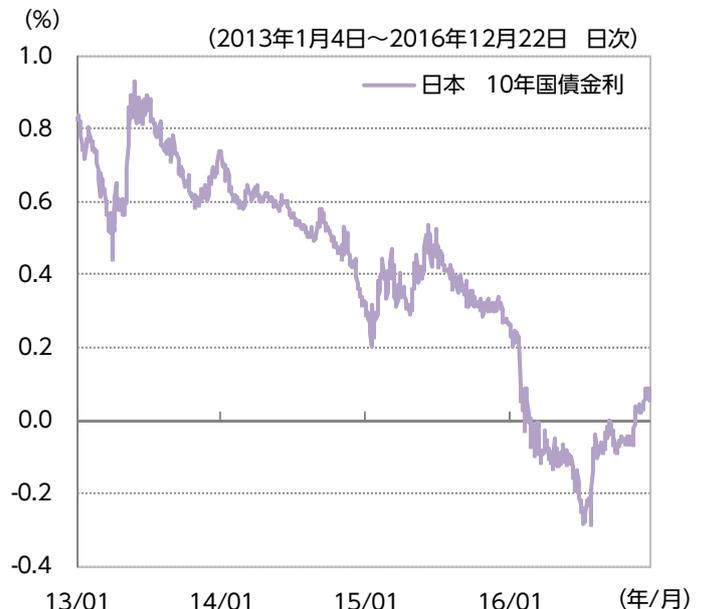
■ 週間では、日経平均株価は0.14%の上昇、東証株価指数は0.44%の下落でした。



債券市場の動き

■ 先週の日本債券市場（10年国債金利）は、20日（火）に日銀が金融政策決定会合において、金融政策の現状維持を決定し、金利水準が当面低く抑えられるとの思惑から買われました（金利は低下）。週末も、米長期金利の低下や、日銀が新発10年債を含む国債買い入れオペを実施したことが相場を支えました。（週末引け値：0.056%）

■ 週間では、10年国債金利は0.025%の下落となりました。



●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

(2) 米国の株式市場

市場の動き

- 先週の米国株式市場（NYダウ）は、目立った材料がない中、一進一退の展開となりました。週初は金利低下を背景に高配当銘柄を中心に買われました。20日（火）は米経済の先行きに対する楽観的な見方から続伸し、史上最高値を更新しました。週央以降は、クリスマス休暇を控え、動意の乏しい展開となりました。（週末引け値：19,933.81ドル）
- 週間ではNYダウは0.46%の上昇となりました。

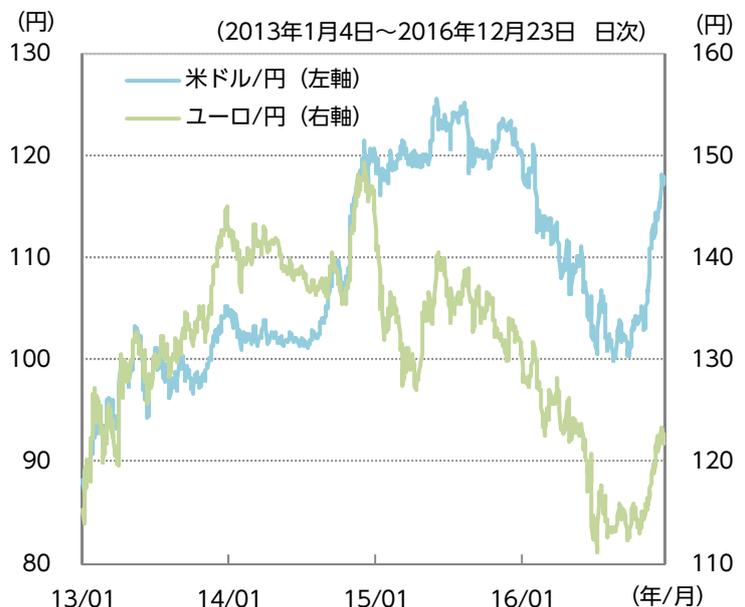


出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(3) 外国為替市場

市場の動き

- 先週の米ドル/円相場は、週初は、前週まで急速に円安・米ドル高が進行したことから、円の持ち高を減らす動きが優勢となりました。20日（火）は金融政策決定会合後の記者会見において、黒田日銀総裁が足元の円安について驚くような水準ではないなどと述べると円売り・米ドル買いが進行しました。週末は、市場参加者が少ない中、日本の3連休を前に積極的な取引は控えられ方向感に欠く値動きとなり、小幅に下落しました。（週末引け値：117円30銭～40銭）
- 週間では米ドル/円は0.51%の円高、ユーロ/円は0.45%の円高となりました。



出所：ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。